（別紙4）　　平成　23　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	2770108922		
法人名	㈱ ｱｽｷｰﾈｯﾄ		
事業所名	グループホーム『あんしん日置荘』の里 （1）		
所在地	大阪府堺市東区日置荘原寺町 402番1		
自己評価作成日	平成２３年４月１日	評価結果市町村受理日	平成23年7月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.osaka-fine-kohyo-

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター
所在地	大阪市中央区常盤町２－１－８ 親和ビル4階
訪問調査日	平成23年4月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

①運営理念である『寄り添う』『共感する』『支える』を いつも心掛け、実践したい。
②日々の衛生管理に気を配り、施設全体がいつも清潔で有ることを実践している。
③地域運営推進会議を2カ月に一度開催し、いつも包み隠さず情報を開示することで少しずつ地域の方たちより支持を戴けるようになって来たので、今後もより一層努力したい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

企業母体は大阪市で介護事業（安心生活計画研究所）を手広く展開している。同族企業として東大阪で訪問介護[アスキーネット]を立ち上げる。企業全体としては初めて堺市に2006年にグループホーム[あんしん日置荘の里]開設した。当初から地域密着の意義の理解に努め、地域に根差したグループホームを目指しての努力を重ねている。管理者の思い・・ゆっくりした介護・・を殆どの職員が理解の上の就業で利用者との馴染みも深まり、利用者と職員相互が醸し出す穏やかで明るい雰囲気、ゆっくりした介護を頷かせるホームで有る。1階フロアーの居室にはクローゼット、トイレが設置されている。管理者の災害対策の姿勢として、自衛消防隊を作り、地域の協力も取りつけて、配置図が一目で判るよう壁面一杯に貼り出されている。

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会議の場や、日々の実践の中で、理念の理解がより深められるよう、意識改革に努めている。	[支える]，[共感する]，[寄り添う]を理念としてリビング壁面掲示されている、管理者は会議、日々の実践の中で理解が深められるよう、意識改革に努めているが充分に出来ていない。	グループホームの理念には地域の密着性が強く求められているので、グループホーム独自の理念も今一度検討されることを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域運営推進会議での情報公開をはじめ、地元行事への参加、地域ボランティアの定期的な受け入れ等を通じ、交流を図っている。	去年4月に自治会に加入し、年6回開催の”いきいきサロン”へ参加、歌、劇、昼食、ホーム主催の夏祭りには自治会婦人部の参加がある。ボランテァの定期的受け入れ、近隣の方々との挨拶など交流に努力をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の場で、積み上げてきた実践を紹介し、理解や支援の方法を伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現状を包み隠さず報告してきたことでグループホームの特性を理解して戴けるようになってきている。今後もより相互理解を深めて行けるよう取り組んでいきたい。	運営推進会議は年6回開催されており、ホームのサービス情報や行事の予定、実施状況、事故報告、ヒャリハット、等の話し合いや、外部評価の結果の公表も実施している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃から各関連機関への連絡・報告を行い、協力関係を築いて行けるよう取り組んでいる。	日頃から市町村への連絡・報告を行い、グループホーム連絡会にも積極的に参加、事業所の実情やサービスの取り組み方についての相談・意見交換をおこない、サービスの向上に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者様の不穏が生じた場合、正しい認知症ケアが行われているなら最大限取り除く事が出来ると考え、事例を通して、常にパーソン・センター・ド・ケア(穏やかケア)を日々実践できるよう努めている。	施設前交通量の多い道路が有り危険なため，内玄関は施錠されている。施設内は拘束はゼロである。	管理者および職員は、鍵を掛ける事や身体拘束の弊害は理解されているが職員が安全を確保出来る限り開錠し、季節の良い時はお茶タイムなど、少しずつ開放する取り組みに期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	日頃の何気ない職員の言動が知らず知らず虐待に通じる危険性を周知するため、事業所会議の議題や事例検討に取り上げ、定期的に研修を行い、周知に努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	機会あるごとに研修や講習に参加している。生活保護受給の入居者さんが多く、担当ケースワーカーにその都度報告を行い、支援に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入退去の際には事前説明を行い、疑問や不安なことを尋ね、理解や納得をして戴いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等の面会時に職員との会話の機会を積極的に持ち、意見の集約に努めている。	家族の面会が頻繁に有り、職員との会話の機会を持ち、意見や、要望等を聞くように努めている。また密に連絡を行い、意見の集約しよりよい介護に繋げている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の事業所会議、職員間の連絡ノート、日頃のコミュニケーションを通じて広く意見を集約し、改善につなげる努力をしている。	毎月1回定期的に開催されている。管理者は職員の意見、希望、提案等を充分に傾聴し職員との日頃からのコミニュケーションや話し合いを図り、大変風通しの良い体制が出来ている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日々の勤務状況を把握し、個々の努力を正当に評価しながら、職員各自が向上心を持って取り組んでいけるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の年次研修計画、及び毎月の事業所会議に外部講師を招いての研修等について、レポートを提出することで習熟を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括との連携や、地域ネットワーク会議への参加、又、他施設のと定期的な交流を持ち、サービスの質の向上に向け取り組んでいる。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談、施設見学、面談、時には体験入居を通じて、安心して入居して戴けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談、施設見学、面談、の機会を繰り返し持ち、ご本人、家族さんの訴えを傾聴し、主訴を受け止め、気持ちに寄り添えるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族・行政・各関係機関と協働しながら、タイミングを逃さず、ご本人の要望を第一に、安全・安心を確保できるような支援を心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常にご本人の立場に立って考えるよう指導すると共に、日々の関わりの中で得られる情報を家族とも共有しながら関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との関係をより深め、最善の方法で対応する事を報告し、家族の協力が必要な時にはその都度要請している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	アセスメントを行い、環境の変化によるダメージを最小限に留められるよう、本人の【馴染み】のある事柄を重視し、家族の協力を得ながら支援している。	本人の此れまでの生活歴や人間関係の把握に努めている。時々友人の訪問も有り、孫の結婚式に家族同伴で参列され、希望が有ればその都度配慮し対応している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士のコミュニケーションがスムーズに行えるよう、必要に応じてその都度支援している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	本人は元より、特に家族や身内に対し、退去後のフォローに配慮し、出来る限りの支援や相談に応じている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前の面談でご本人をよく観察し、ご本人からの聞き取りが困難な時は家族・知人・関係機関からの情報を収集し、可能な限り聞き入れるよう努めている。	入居前の面談で本人の思いや希望に沿うように努めている。困難な場合でも、家族訪問の都度生活歴や以前の暮らしぶりを聞きだし、意向の把握に努め、また本人の視点に立って支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントの段階で関係者からの情報を集め、これまでの暮らしぶりを極力つかみ、入居後も状態観察を行いながらそれらの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメントの段階で関係者からの情報を集め、これまでの暮らしぶりを極力つかみ、入居後も状態観察を行いながらそれらの把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族・関係者の意見や、カンファレンス、事業所会議における事例検討行った際の意見やアイデアを現状の介護計画に反映させるよう努めている。	3ヶ月及び6ヶ月に1回の計画書の見直しが実施されている。計画は、本人、家族の意向取り入れ、職員や関係者も参加して作成している。また状況変化には関係者と密なる連携と話し合いにより迅速に対応する体制が出来ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録、連絡ノート、カンファレンス結果報告等の情報を共有し、見直しに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の要望に、その都度対応するよう心掛けている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域自治会の婦人部・福祉部、地域ボランティア等の受け入れを実施している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族が希望する医療機関を受診して戴く事を基本とし、かかりつけ医との信頼関係が深まり、適切な医療が受けられるよう支援している。	本人及び家族の希望を尊重して、かかりつけ医が継続されている。事業所の協力機関の医療の場合は同意を得ている。週1回、内科・歯科・訪問看護の往診がある。体調に応じ受診出来るよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は日常の情報や気付きを看護職員に伝え、訪問看護師にも相談しながら、看護職からかかりつけ医に連絡が行くよう事案が有るごとに連携を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には適切な情報を提供し、入院中には何度も足を運び病状の把握に努めると共に、早期退院に向け、家族、医療機関との情報交換や相談・援助に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族・かかりつけ医とよく相談し、必要時には医療・介護の支援体制を整えられるよう出来る限りの対応に努め、関係者、関係機関、かかりつけ医、常勤看護師、訪問看護師、職員等で方針を共有する。	「看取りに関する指針、重度化した場合の対応に係わる指針」があり同意書も交わされている。医療・介護の支援体制を整える対応に努めている。終末期ケアに対し消極的にならず、入居者、家族の希望があれば、受け止められるような介護力を養う取り組みをしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルを身近に常備し、有事の際にはすぐ適切な対応が出来るよう周知している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行っており、地域運営推進会議の議題にも上げ、非常災害時には協力・支援を戴けるよう働きかけを行っている。	定期的に避難訓練を行っている。運営推進会議の議題としている。地主様が近隣の米屋であり、地域の連絡網が作られ協力体制が出来ており、スプリンクラ―の設置もされている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	事業所会議で《虐待》に関する研修を行い、事業所全体で細心の注意を払っている。また、定期的にプライバシー尊重に関する研修を重ねて行きたい。	日常生活でお互いの気づきは注意をしあっている。定期的に研修会を行いプライバシーの確保や尊厳への配慮については留意している、個人情報の取り扱いにも十分に配慮されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常のコミュニケーションを通じて、ご本人の思いや希望を把握できるよう支援を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務スケジュールを優先するのではなく、利用者一人一人のペースを尊重しながら支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の好みを把握し、支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	個人個人の好みや力を把握し、出来る範囲で支援している。	手伝いの出来る方は少なく成っている、給食業者を利用しているが、おやつは必ず職員の手作りの物が提供される。外食（喫茶）は昨年1回行われたが今後も希望を聞き実施する努力をする。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスのとれた食事を提供し、日々、食事・水分摂取量を記録し、状態把握に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎週金曜日に訪問歯科診療を受け、口腔衛生に配慮している。その際に歯科医より注意や状況報告をもらいケアに生かしている。また毎食後、個人の力に応じた口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者一人一人のリズムを掴み、支援をしている。	常勤看護師により個人生活記録で細かくチェックされている。個人のリズムを把握しさりげなく、声かけ等支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事・水分・排泄に関する記録を毎日取ることで便秘の症状を早期に掴み、原因を探り、かかりつけ医とも相談しながら各個人に合った対応を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	少し大きめの浴槽に、一人一人入浴後のお湯を入れ換え、ゆっくり入浴して戴きたいので、一日に入浴できる人数が限られているため、完全ではない。	浴室は広く、湯船が大きい。完全個浴を実施ており湯張りに時間がかかり、基本週3回の入浴を考えているが十分に行えていない。また利用者の希望により足浴、清拭、シャワー浴等で柔軟に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	充分配慮を行い、安息して戴けるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	定期的にカンファレンスを行い、副作用、効果の度合いを薬剤師に確認、利用者の状態を観察し、必要に応じてかかりつけ医に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人らしい暮らしを送って頂けるよう工夫し、支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気分転換、ストレス解消、五感への刺激の機会と捉え、積極的に取り組んでいる。また、季節の行楽には大掛かりな外出が不可能なので、昨年秋に個人の希望を聴き少人数で楽しんで戴けた事もあり、今後定期的に取り入れたい。	ホームの周囲を散歩コースとし毎日出かけている。顔馴染みに成った近隣の方からお花を頂く機会が多く、リビングのテーブルに飾られている。近所の釣り堀に釣りに行かれるのを楽しみにしている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	可能な限り、個人に有った形で支援し得いる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族関係が良好な方は概ね面会が定期的に多くあり、反対に関係の良くない方にはそれ以上悪化しないよう配慮しながら支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間が狭く、限界がある中で清潔を第一に心掛け、生活感、季節感を程良い感覚で取り入れるよう工夫をしている。	リビングにはソファーがあり、思い思いに座られ、テレビ、5月端午の節句の武者人形が飾られ（3月は雛人形）ている、壁には利用者の作った作品が展示している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	空間が狭く、充分な事が出来ない中で配慮をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族には入所前の面談時に、馴染みの物を持ちこんで戴けるよう説明を行い、可能な範囲で実践して戴いている。	居室には危険なものは置かない、自宅で使っていたタンス、テレビを使用、お気に入りの写真、ぬいぐるみが置かれて、従来からの生活の継続性が感じられる。居心地良く、その人らしく暮らせるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の状況に合わせ、混乱や不安の無いよう工夫している。		